

日本原子力学会 保健物理・環境科学部会
2007 年秋の大会 総会議事
(2007 年 9 月 29 日 12 時～13 時 F 会場)

議 事 次 第

進行：高橋委員

- | | |
|-----------------------------------|------------------|
| 1. 部会長挨拶 | 飯田部会長 |
| 2. 部会の体制について (資料 1) | 高橋委員 |
| 3. 2007 年部会企画について (資料 2) | 山西委員、永井委員 |
| 4. ICRP 調査研究連絡報告会について | 小池委員、飯本委員 |
| 5. 部会主催・共催シンポジウム等について | 小池委員、飯本委員 |
| 6. 2008 年春の年会以降の部会企画について (資料 3) | 山西委員、永井委員 |
| 7. 炭素 14 環境中移行研究連絡会の活動について (資料 4) | 高橋委員 |
| 8. 委員会報告 | 各学会委員 |
| 9. その他 | |
| 10. 副部会長挨拶 | 占部副部会長
本間副部会長 |

以上

日本原子力学会 保健物理・環境科学部会
第 4 期 (2006～2007 年度) 委員名簿

【役員】

部会長 : 飯田孝夫 (名大)
副部会長 : 占部逸正 (福山大)
副部会長 : 本間俊充 (原子力機構)
会計監査 : 宮崎振一郎 (関電)

【運営委員】 25 名

○飯田孝夫 (名大)、○飯本武志 (東大)、○植頭康裕 (原子力機構)、内田滋夫 (放医研)、○占部逸正 (福山大)、○木名瀬栄 (原子力機構)、○栗原治 (放医研)、○小嵐淳 (原子力機構)、○小池裕也 (東大)、小佐古敏荘 (東大)、下道国 (藤田保健衛生大)、杉浦紳之 (近大)、○高橋知之 (京大)、塚田祥文 (環境科研)、○外川織彦 (原子力機構)、○永井晴康 (原子力機構)、○服部隆利 (電中研)、二ツ川章二 (RI 協会)、○本間俊充 (原子力機構)、○三浦太一 (高エ研)、宮崎振一郎 (関電)、百瀬琢磨 (原子力機構)、○山澤弘実 (名大)、○山西弘城 (核融合研)、米原英典 (放医研)

(○は常任委員会を構成する部会長、副部会長及び幹事)

【学会委員】

部会等運営委員	飯本武志 (東大)	2007～2009 年度
学会誌編集委員	服部隆利 (電中研)	2004～2007 年度
	外川織彦 (原子力機構)	2006～2008 年度
	三浦太一 (高エ研)	2007～2009 年度
	高橋知之 (京大)	2007～2009 年度
学会プログラム委員	植頭康裕 (原子力機構)	2005～2007 年度
	木名瀬栄 (原子力機構)	2005～2007 年度
	永井晴康 (原子力機構)	2007～2009 年度
日韓サマースクール運営連絡会担当	飯本武志 (東大)	2005～未定

【担当委員】

総務担当 : 高橋知之、山澤弘実 (運営委員会及び総会運営、その他雑務)
会計担当 : 栗原治 (会計)
渉外担当 : 小池裕也 (学会事務局、他学協会、他部会等との連絡調整等)
企画担当 : 山西弘城、永井晴康 (部会企画の立案、運営、プログラム作成等)
広報担当 : 小嵐淳 (ホームページ管理、メーリングリスト管理、部会ニュース作成等)
組織担当 : 木名瀬栄 (投稿論文、学会発表の勧誘、部会員の増強)

2007 年部会企画について

2007 春の年会 3月28日(水) 13:00～14:30

部会企画セッション(保健物理・環境科学部会)

「自然放射線被ばくに関する放射線防護の動向」

座長：福山大 占部逸正

- | | | |
|-------------------|------|------|
| 1. 自然起源の放射性物質の管理 | 放医研 | 米原英典 |
| 2. 航空機被ばくの管理 | 放医研 | 保田浩志 |
| 3. 宇宙飛行士の被ばくの考え方 | 三菱総研 | 岩井 敏 |
| 4. 職場と一般環境のラドンの対策 | 東大 | 飯本武志 |

2007 秋の大会 9月29日(土) 13:00～14:30

部会合同企画セッション(核融合工学部会、保健物理・環境科学部会)

「核融合実験と放射線安全」

座長：東大 小佐古敏荘

- | | | |
|-------------------|------|------|
| 1. ITER 計画と放射線安全 | JAEA | 大平 茂 |
| 2. JT-60 計画と放射線安全 | JAEA | 宮 直之 |
| 3. 保健物理から見た核融合 | 東北電力 | 齋藤 実 |
| 4. 環境科学から見た核融合 | 九大 | 百島則幸 |

2008 年春の年会以降の部会企画について（案）

◆2008 年原子力学会「春の年会」保健物理・環境科学部会 企画案

企画セッション名：再処理工場から放出される放射性物質による環境影響評価
「再処理施設に係る環境安全とリスクコミュニケーション」

趣 旨：六ヶ所再処理工場は現在使用済燃料を使用してアクティブ試験が実施されている。アクティブ試験は 5 ステップの内、平成 19 年 9 月より第 4 ステップが開始され平成 20 年 2 月の操業開始に向けて、引き続き第 5 ステップが進められる予定である。わが国最初の大型再処理工場から放出される放射性物質の環境への影響に関して、アクティブ試験の結果を考察し、本格操業に関する評価を議論する。

企画セッションの持ち時間は、90 分； 発表 3 件～4 件＋総合討論
(講演題目と講演者は案であり、確定ではありません。)

講演の候補

- 1 六ヶ所再処理工場におけるアクティブ試験と環境影響評価について (※1)
(日本原燃 環境管理センター 佐々木耕一氏)
- 2 再処理施設における放出モニタリングおよび環境モニタリング、
東海再処理施設の経験
(JAEA から)
- 3 環境モニタリング計画
(環境研または青森県から)
- 4 核燃料サイクルにおけるリスクコミュニケーションの取り組み
(?)
- 5 環境の放射線防護について ICRP 第 5 委員会
(電中研 酒井氏)

※1 内 容：平成 18 年 3 月 31 日から開始されたアクティブ試験での放出実績、環境モニタリング実績、気象実績を紹介し、計画段階の環境影響評価について考察すると共に、本格操業時の影響を評価する。

【今後の作業】

- 9 月 28 日 部会運営委員会で、企画案に関する議論、承認（北九州学会会場）
- 9 月 29 日 部会総会での議論、承認（同上）
企画の詳細を作成
- 11 月初旬 企画案（詳細）を学会事務局に提出
部会等運営委員会で議論され承認
- 12 月初旬 予稿の提出（一般講演の予稿提出期限と同じなので、たぶん 12 月初旬）
- 08 年 3 月 企画実施発表議論。

体制案

- 企画担当、連絡者 山西弘城（核融合研）
- 企画協力者 宮川俊晴（日本原燃）、百瀬琢磨（JAEA）

以上

炭素 14 環境中移行研究連絡会の活動について

第 1 回炭素 14 環境中移行研究連絡会会合を以下の要領で開催した。

日時：2007 年 3 月 28 日 18:45～

場所：名古屋大学工学部 5 号館 3 2 0 会議室

議事概要：

1. 経緯説明および自己紹介

- 1) 2006 年秋の大会での部会企画セッションを受けて連絡会が設立されたとの経緯説明があった。
- 2) 自己紹介および各自の研究着目点についての説明があった。

2. 活動内容

連絡会の活動内容について議論し、以下の情報・意見が出された。

- ・ 処分場から環境への炭素 14 移行に関して知見が乏しく、安全評価において不確かさが大きい。
- ・ 他核種と同様の移行過程の評価方式がとられており、炭素の特殊性が考慮されていない。
- ・ 微生物の効果が大きいと考えられるが、知見が乏しい。
- ・ 温暖化等の環境条件の変化が処分場安全（評価）に及ぼす影響も興味がある。
- ・ 埋設処分からの炭素 14 移行が主である。
- ・ これから再処理からの炭素 14 も見えてくるので、知見を得ておかなければならない。
- ・ 放医研で研究が動き始めている。
- ・ 堆積岩中炭素 14 移行研究（JAEA 重点研究）が進められている。
- ・ 規制の観点では炭素 14 は難しい。実験設備も限られる。

これを受け、今後の活動として以下の活動を行うこととした。

- 1)バックエンド部会と、学会での共同の企画セッション等ができないかを探る。（宮内）
- 2)学会発表をまとめたセッションで行えるよう、プログラム委員等に働きかける。（山澤）
- 3)放医研等からの参加を募る。（高橋）
- 4)連絡会の情報伝達は、随時それぞれから全員にメールで流すこととする。

3. 体制について

幹事： 山澤（庶務）

宮内（バックエンドとの連携）

高橋（放医研等との連携）

「放射性廃棄物処分研究のためのネットワーク」ワークショップの一部として開催された「C14に関する情報交換会」に当研究連絡会から山澤、高橋、小嵐が参加し、処分分野の研究者と情報交換を行った。

日時：2007 年 9 月 3 日 13:00～

場所：東海村テクノ交流館リコッティ